

パルシシステムの物流

2023年度上期総括と2024年問題の対応



パルシシステム生活協同組合連合会
商品管理本部 副本部長(物流部長兼務) 茂木洋介

2023年度上期事業概況

	実績	予算比	前年比
受注高	1,204億円	100.0%	100.1%
配付枚数	89.5万枚/週	98.8%	99.7%
利用人数	77.4万人/週	98.5%	99.0%
1人当受注高	5,984円	101.5%	101.1%
1人当受注点数	13.4点	-	96.0%
点単価	448円	-	105.3%
	実績	構成比	前年比
インターネット受注高	590億円	48.6%	103.4%
タバソダ受注高	41億円	3.1%	105.3%

パルシシステムグループ組織概要(2022年度実績)

JAPAN'S SDGS AWARD 2017



第1回「ジャパン SDGsアワード」受賞

設立 1990年2月9日
総事業高 2,530.9億円
組合員数 171.4万人
会員数 13会員(13都県)^{3利用会員込}

pal*system

友だち
仲間

制度
体制

個人の参加が大きな共同を作り出す

2023年10月
名称変更



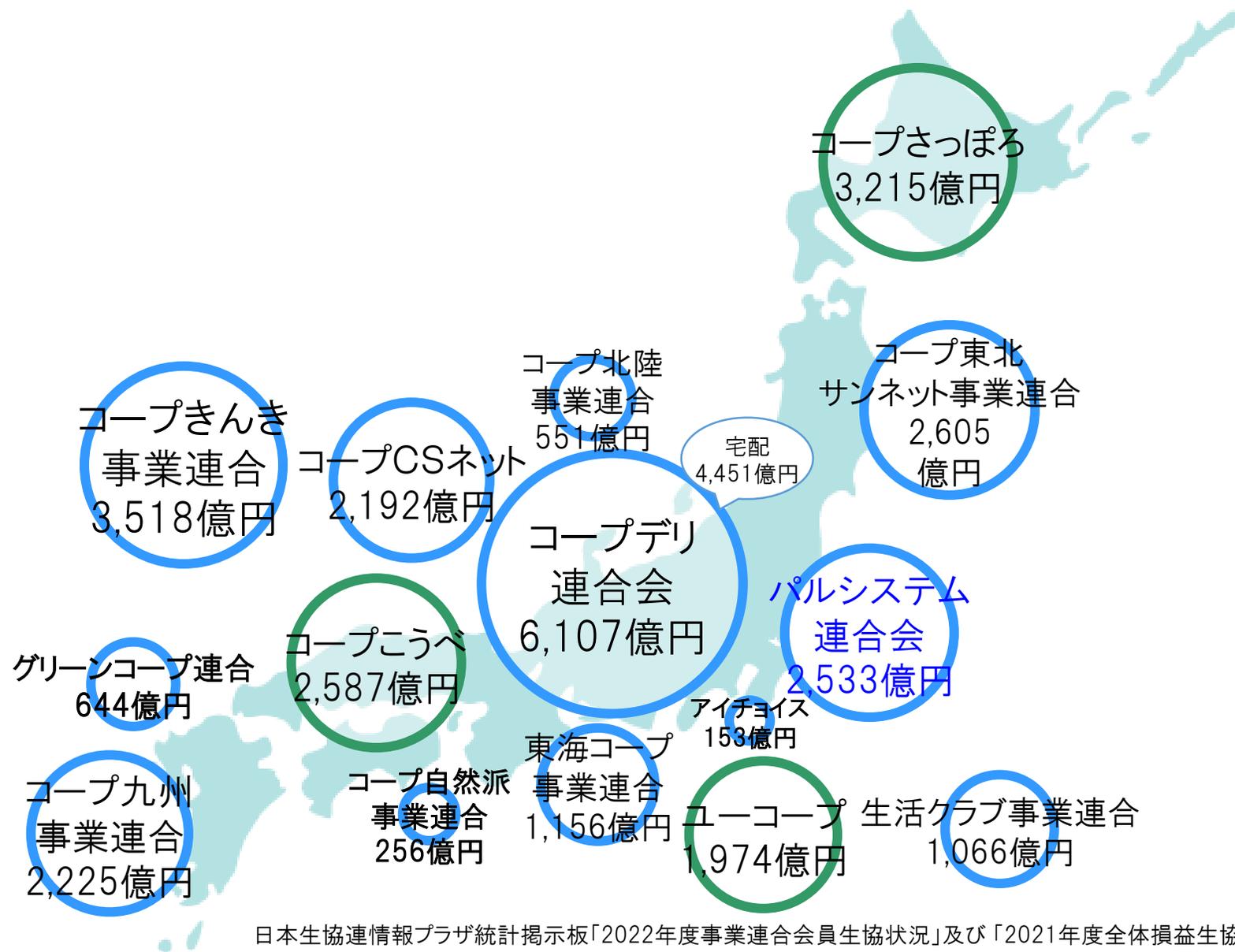
2022年度主要地域生協総事業高

単独生協

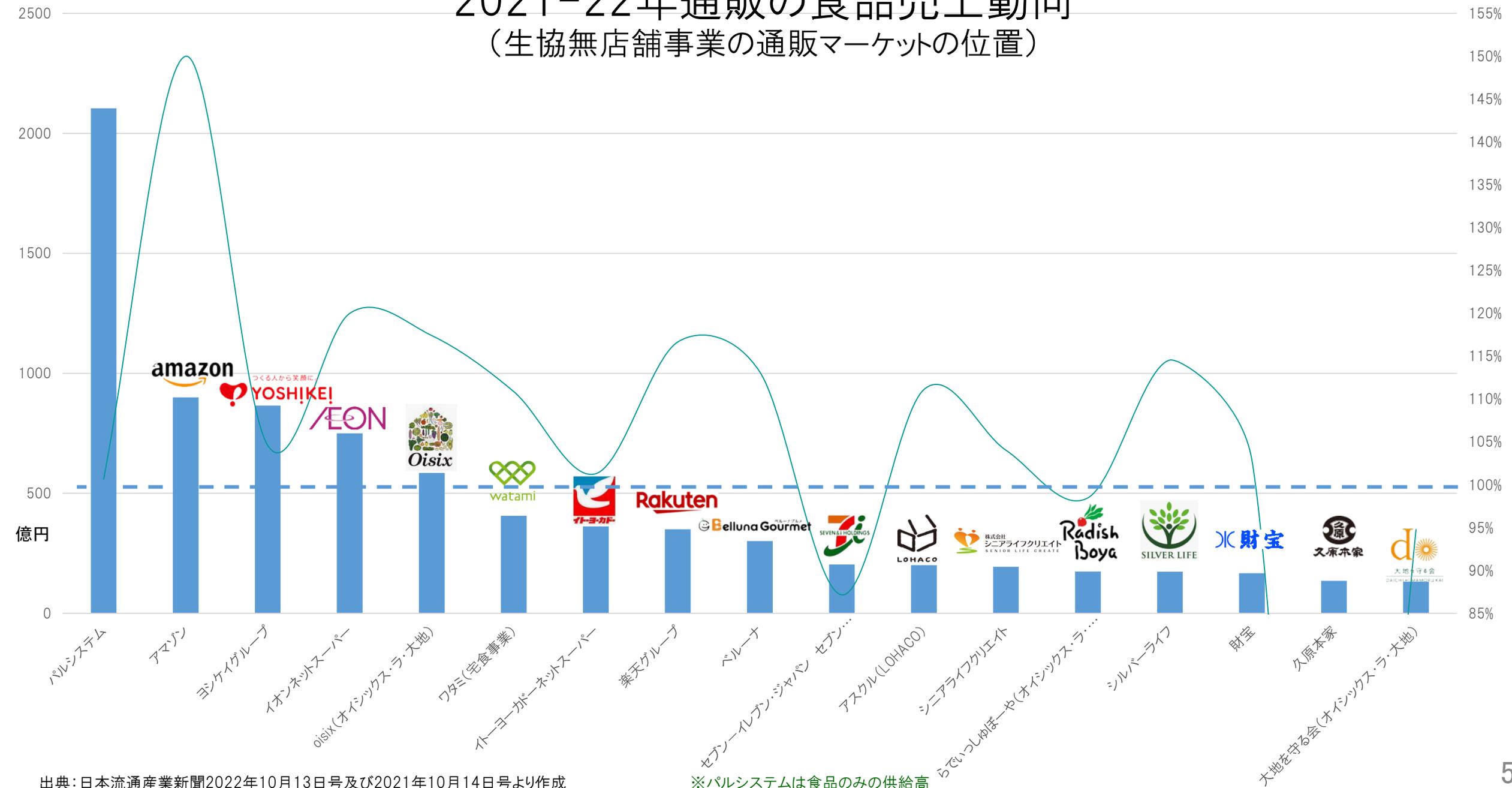
2022年度全体損益生協別より

事業連合

2022年度事業連合会員生協状況より



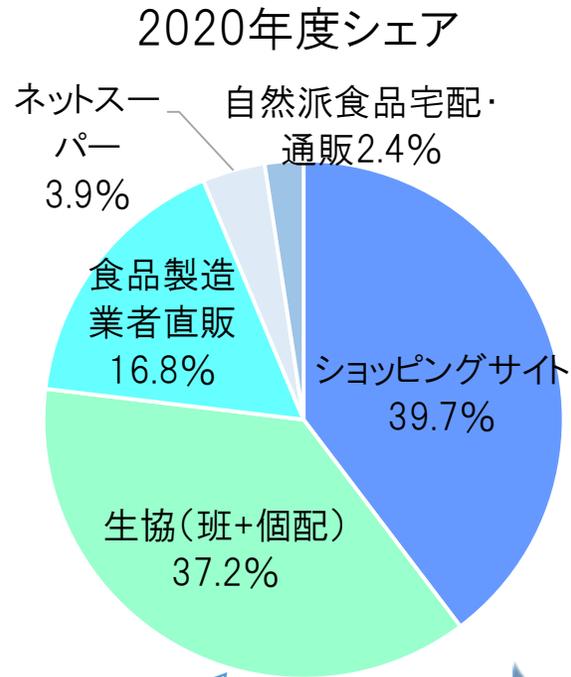
2021-22年通販の食品売上動向 (生協無店舗事業の通販マーケットの位置)



出典: 日本流通産業新聞2022年10月13日号及び2021年10月14日号より作成

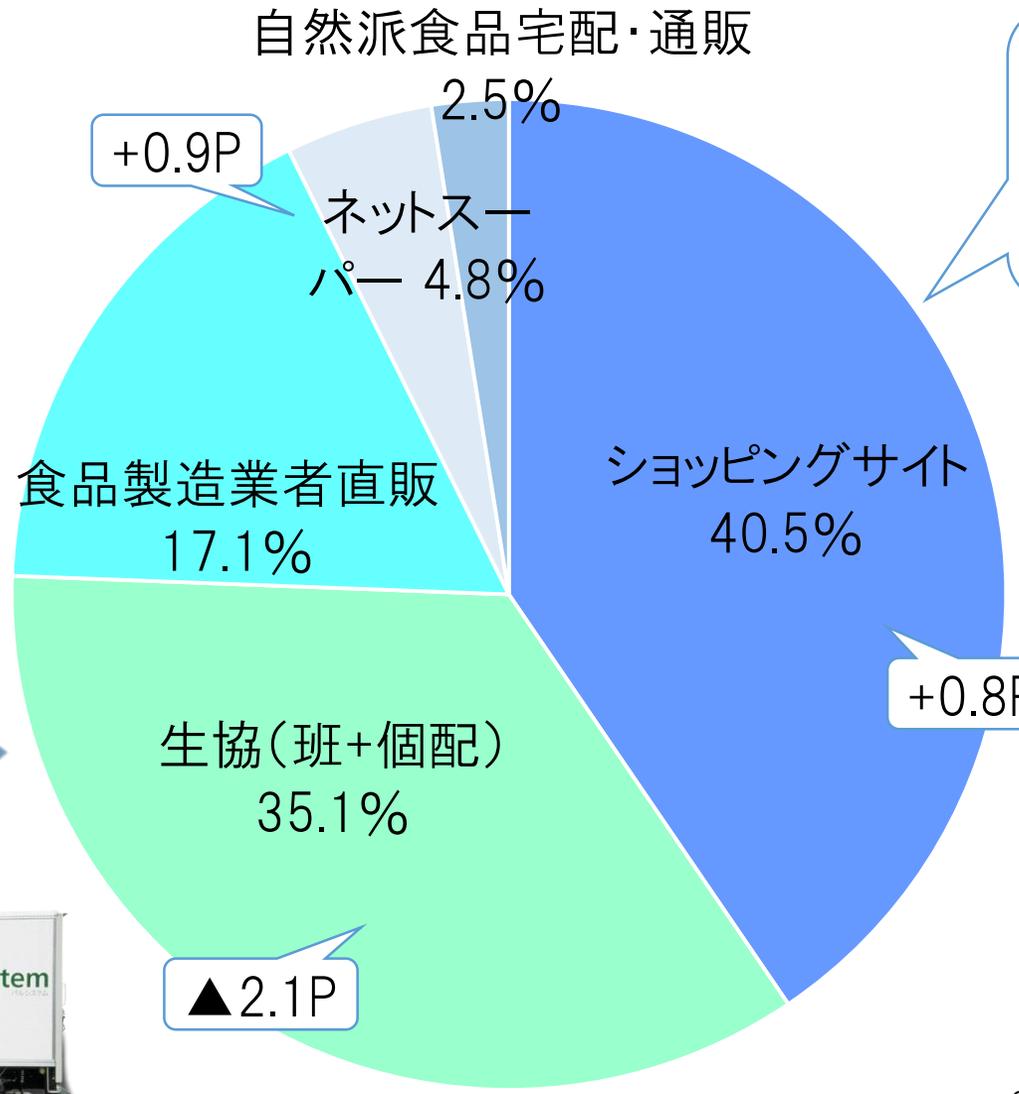
※パルシステムは食品のみの供給高

2021年度食品無店舗販売市場シェア



2018年までは生協が38.7%でかろうじてシェアトップ

2014年市場2兆規模で生協シェア50%



市場規模
4兆4,434億円
2020は前年
前年102.1%
113.1%

EC食材宅配は個人別ニーズに応じサービスが多様化、細分化



たっぷり3kg 前後を毎週お届け!



物流・青果加工拠点



食品加工

■ 板倉センター
2017年
pal-system 株式会社 パルライン



冷蔵

■ 熊谷センター
2020年
pal-system 株式会社 パルライン



ドライ

■ 八王子センター
2008年
pal-system 株式会社 パルライン



冷蔵・青果

■ 岩槻センター
2001年
pal-system 株式会社 パルライン



パン

■ 大和田センター
2009年
株式会社 パルブレッド



冷凍

■ 南大沢センター
2009年
pal-system 株式会社 パルライン

■ 杉戸センター
2004年
RYUTSU 株式会社 流通サービス



ドライ・パン

■ 新治センター
1997年
pal-system 株式会社 パルライン



冷蔵



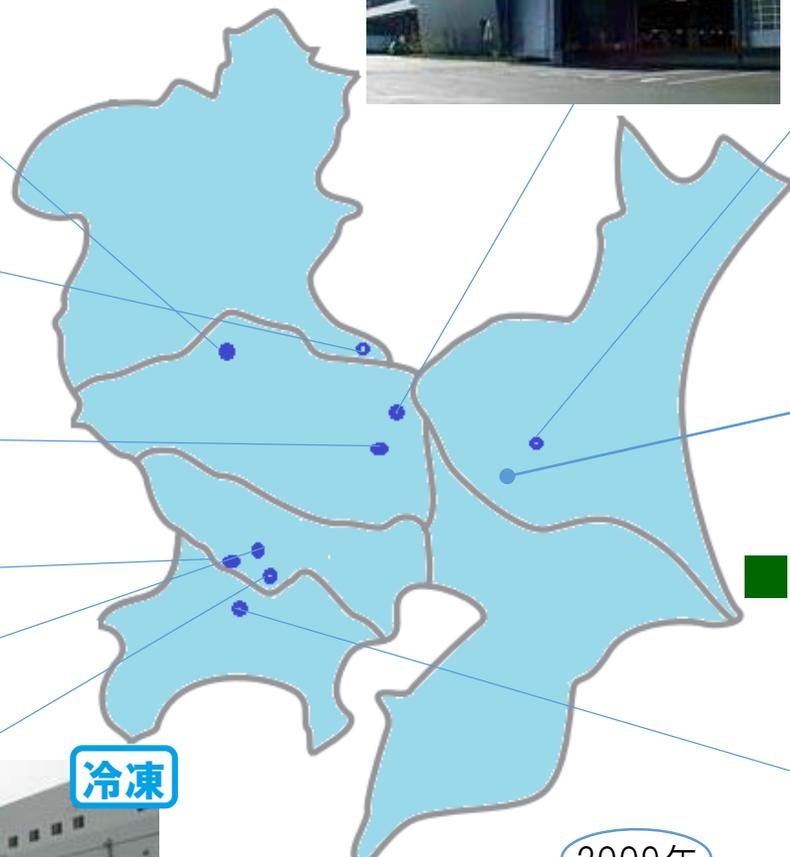
冷凍

2024年8月稼働

■ つくばみらいセンター
青果



■ 相模センター
1999年
pal-system 株式会社 パルライン



冷凍品強化による供給増とくらし貢献

■ 2023年10月373→392枠に

冷凍



セット要員及び
南大沢DCキャ
パ確保が課題

冷凍お料理セット強化
⇒利用に貢献

WEB EDI精度向上
最終確定

日曜日⇒土曜日15時

10月アイテム増で
格納パレット130増



■ 冷凍つくばみらいセンター

9月上棟

2024年8月
稼働に向け準備

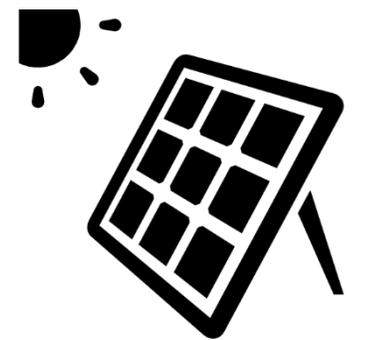
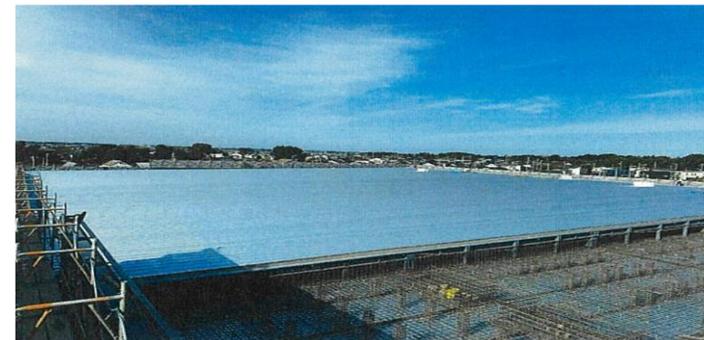


環境配慮・省人化追求
自動倉庫・補充
自動投入機装備

南大沢から商品
転送
※一部2か所納品依頼

自家消費型太陽光発電

3月受電開始予定



共配本格稼働による効率化

■ 稲城共同配送センター

2021年4月
運用開始
利用14社に拡大



2022年度

年間100万ケース通過予定
→年度末75万ケース



2023年度

2月以降に2社新規予定

パレット納品による
荷降ろし効率化



待機による長時間労働や事故・労災削減

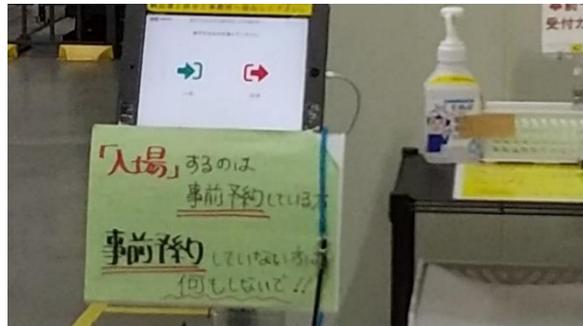
■ セットセンター納品予約システム活用



八王子センター



南大沢センター



杉戸センター
24年度導入検討

冷凍予約率50%→60%
予約外2時間待ち
平均1時間(30分短縮)



■ 配送センターへの基幹物流納品待機



配送トラック帰庫時
を避けた納品
待機場所確保

■ セット・配送センター設備改修

荷受け・出荷の効率化
や事故・労災を防止

荷崩れによる
商品破損回避



商品温度管理

■ 常温流通開始時期変更

チョコレート商品
10月1回→4回



真夏日
過去最多

3枠増



溶け21年29件
→22年4件

冷蔵

■ 冷凍入荷温度管理

冷凍

入庫時温度-10℃
以上は差し戻し



■ 青果セット前冷やし込み



鮮度維持
品質向上
に貢献

青果



月	2023年度	2022年度
4月	1	5
5月	0	3
6月	4	2
7月	3	5
8月	6	2
9月	3	2
計	17	19

セットミス低減・商品破損対策

2023年度上期累計

目標
40以下

	集品点数	訂正追加	ミス率 (ppm)
相模	31,015,245	903	29
岩槻	34,015,245	1,236	36
新治	23,371,196	735	31
南大沢	72,713,253	867	12
杉戸	25,445,480	842	33
八王子	21,546,626	732	34

40ppm = 5万分の2
東京ドームの席満員で2人

12

冷凍

37

冷蔵

32

青果

33

ドライ

13

パン

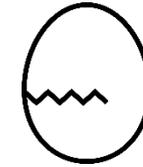
熊谷SC

卵破損対策

セット時
パッケージ
シミチェック



目標
1/1000以下



個別セット・冷蔵シッパー
への寄せ実験検証



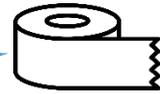
プラスチック・紙削減

■ 2個ピック対象6品に

冷凍



外袋・テープ削減



■ 紙削減

受注高97-98%設定



AIによるカタログ
配り分け開始

カタログ配付停止
機能装備

紙代
高騰



■ エコバンド導入

再利用可能に

稲城共配本格導入



■ 再生プラ切替

100%再生シッパーフタ
導入9月池尻センター

年間1t
削減



12月
めど

新治まとめ袋一部
再生材3%に

100%再生シッパー
2月先行導入
破損対策実施中



効率化によるCO₂削減

■ セット残削減

予備4→3点で
1千万円節減

ドライセット残
在庫化

年13企画
出庫期限
90日以上



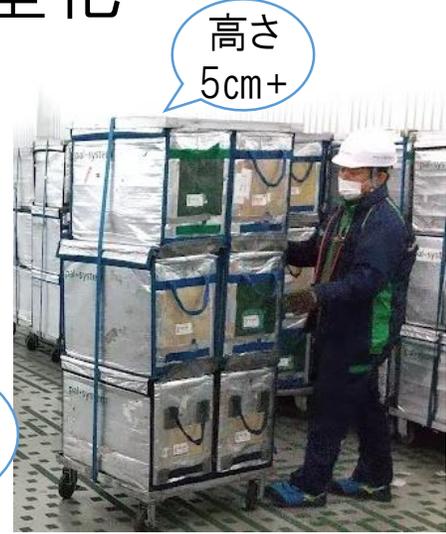
2千箱
ドーリー170台/日
程度削減

■ 24年度冷凍Zパック小型化

3→4段積み付けで積載UP
出荷ドーリー数5.5%減



商品潰れ
作業負担軽減



■ セット効率UP

箱入り数
適正化



ドーリー車輪
縮小

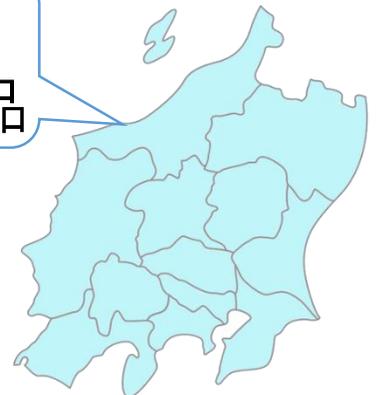
八王子→杉戸転送
4→5段積みで3→2便に削減

■ 23年度10t車1台 駐車スペース確保

遠方会員への
冷蔵・冷凍併せ納品



走行距離
削減



節電対策

■ 冬季温度管理

冷蔵

休業の金～土AMは
1階10℃、2階12℃

熊谷
空調8→9℃設定で
10℃以下保持



■ 夏季節電対策

冷凍

室外機
散水

- LED照明導入
- 空調機器更新

各施設
順次入替



	温度帯	2022年度	2023年度	前年比
南大沢	冷凍	1258.3	1213.3	96.4%
岩槻	冷蔵・青果	776.7	712.5	91.7%
相模	冷蔵・青果	450.5	420.3	93.3%
新治	冷蔵	138.8	122.0	87.8%
熊谷	冷蔵	678.0	662.1	97.7%
杉戸	ドライ	536.6	463.1	86.3%
八王子	ドライ	297.5	232.1	78.0%
合計		4136.5	3825.5	92.5%

前年110%
推移が下降

原油換算(kl)

省人化推進

■ 稲城倉庫管理システム(WMS)導入

■ 配送車ドローリ一積付け検討

帳票貼付作業を
自動管理化

ケース転送

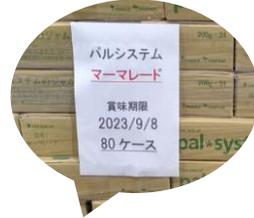


SC入庫時
無検品化予定

2023年10月



帳票
バーコード
発行



在庫管理
適正配置

棚卸管理



■ 南大沢DC段ボール開梱機導入

入庫管理



2024年問題

2024年4月～

自動車運転業務における 時間外労働上限規制



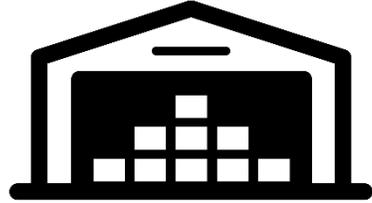
19年比輸送能力
最大14.2%減

2015-2030
運転従事者3割減



■ 荷主の自主行動計画策定

多物量の特定荷主
年度内策定義務



■ 違反原因行為の実態調査

長時間荷待ち



■ トラックGメン監視強化

発荷・着荷ともに悪質対応
の事業者は社名公表



依頼無し
付帯業務



無理な
配送依頼

運賃不当
据え置き



拘束時間
超過



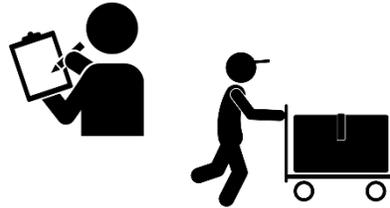
過積載
運行要求



異常気象時
運行指示

納品影響リスクへの対応

■ 発注後リードタイム確保



500km以上遠方
取引先に共配紹介も

ドライ取引先
文書配信



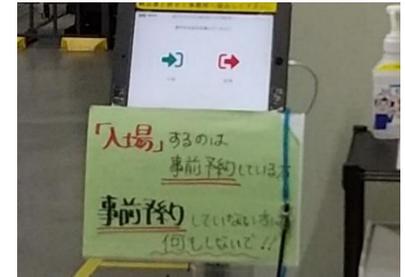
■ 待機時間削減

待機分料金
要請



空きのある
午後納品に

杉戸予約シス
テム導入検討



■ 納品トラブル対応



土日祝日など
緊急連絡先確保

商品担当との
密な連絡





「ホワイト物流」推進運動宣言

「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

企業・組合名	役職	氏名	所在地	主たる事業	ホームページ
パルシステム生活協同組合連合会	専務理事	浅澤 温之	東京都	卸売業、小売業	https://www.pal.or.jp/

当社は、「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、以下のように取り組むことを宣言します。

最終更新: 2023年1月13日

(取組方針)

・事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組みます。

(法令遵守への配慮)

・法令違反が生じる恐れがある場合の契約内容や運送内容の見直しに適切に対応するなど、取引先の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

(契約内容の明確化・遵守)

・運送及び荷役、検品等の運送以外の役割に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

No.	分類番号	取組項目	取組内容
1	A ①	物流の改善提案と協力	・納品の順番待ちや運転者の作業の合理化等について要請があった場合は、真摯に相談に応じるとともに、自らも積極的に提案します。(パレットでの納品等)
2	A ②	予約受付システムの導入	・トラックの予約受付システムを導入と運用の見直しを随時おこない、納品の順番待ち時間を短縮します。
3	A ③	パレット等の活用	・パレット、カゴ台車、ドレー、折りたたみコンテナ、通い箱等を活用し、荷役時間を削減します。また、パレットのラップ巻きをバンド使用に置き換え、労働負荷軽減とプラスチック資材の削減に取り組めます。
4	A ④	発荷主からの入出荷情報等の事前提供	・箱に仕分けした商品を会員センターに納品するための、入出荷情報等を早めに委託先へ提供し、委託先業務の運用効率改善に努めます。
5	A ⑤	出荷に合わせた生産・荷造り等	・出荷時の順序や荷姿を想定したセット作業を実施し、待ち時間を短縮します。
6	A ⑥	荷主側の施設面の改善	・物流施設の集約・増設・レイアウト変更等を行い、積み降ろしにかかる時間や順番待ちの時間を短縮します。労働負荷軽減のための機械化を進めます。
7	A ⑦	高速道路の利用	・物流委託先から、有料道路の利用と料金の負担について相談があった場合は、真摯に協議に応じます。
8	A ⑧	物流システムや資機材の標準化	・取引先や物流事業者から、データシステムの仕様やパレットの規格等の標準化について要請があった場合は、真摯に協議に応じるとともに、自らも積極的に提案します。
9	B ①	運送契約の書面化の推進	・運送契約の書面化を推進します。
10	D ①	荷役作業時の安全対策	・労働災害の発生を防止するため、安全な作業手順の明示、安全通路の確保、足場の設置等の対策を講じます。
11	F ①	独自の取り組み	・商品の発注～納品・仕分け・出荷・会員センター納品までのトータルな物流について運用の見直し、器材の活用等の生産性向上の取組を、会員生協や利用者である組合員の理解と協力のもとに実施します。また、環境に配慮した器材の導入を推進します。

PR欄

「パルシステム生活協同組合連合会」は、首都圏を中心とした地域生協とパルシステム共済生活協同組合連合会が加盟する連合会組織です。食を中心とした商品の供給事業や共済・保険事業、福祉・電力事業などを展開しています。食品を中心に、生活雑貨関連まで、注文された商品は、個人宅やグループ(共同購入)へトラックで配達しています。パルシステムでは、全国の生協に先駆け個人宅配りを始め、ライフスタイルにあわせた注文方法を用意するなど、組合員のくらしに役立つ生協をめざし、絶えず新しい挑戦を実践しています。

2023年3月15日
提出

取引先との契約
書面化や課題解決に向けた真摯な
協議・提案も記載



2024年
問題対策へ

調達物流課題解決への挑戦

■ パレット積納品

冷凍

テスト運用

積載効率
が課題



高積みできない

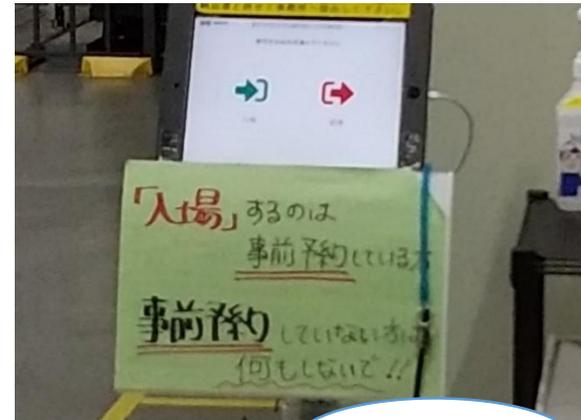
■ 共配呼びかけ



手降ろしの負荷
→ 接車時間短縮へ



■ 予約バースシステム



前々日予約

南大沢予約率
6割からさらに拡大

杉戸への
導入検討



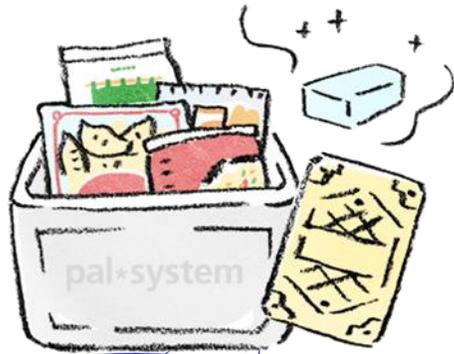
予約なしだと
最大2時間待機



パートナーシップによる物流へ

1.2024年問題対策

2.利用点数拡大



冷凍食品利用点数
101%実現へ



3.環境対応



協力会 物流部会
 部会長:流通サービス 大葉氏
 副部会長:国分 南氏
 平田産業 平田氏 源 平田産業有限公司

